

天文教育

2025

5

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy
(PJEPA)*



＜特集＞ 東北支部会報告

＜特集＞ 若手特集：研究者であり伝え手でありたい

＜投稿＞ 天文教育における探究型学習課題(4)

＜投稿＞ アイヌのプレアデス星団についての伝承

＜投稿＞ イギリス・クック社製 25cm 屈折望遠鏡

＜投稿＞ 日本最初の空港プラネタリウム

＜報告＞ 九州沖縄支部会報告

＜報告＞ 若手天文教育普及 WG（わか天）の活動Ⅴ

＜その他＞ 事務局からのお知らせ ほか

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます（共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします）。

1. **原著論文・資料論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト（要旨）には英文も付けてください（英文は審査通過後に追加も可）。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで 6～10 ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで 2～4 ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで 1～2 ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで 1 ページ程度。
6. **裏表紙の写真**：タイトルと 400 字以内のコメントとともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただきます場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

- ・ **締め切り**：1 は随時受け付け、2～7 は偶数月（発行の前月）15 日です。投稿先は post@tenkyo.net です。
- ・ 本誌に掲載された記事（上記 1～6 および 7 の一部）は、当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。
- ・ **広告掲載**を希望される方は事務局（jimu@tenkyo.net）までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4 ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートが当会 Web サイト（<https://tenkyo.net/>）からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の写真

天文関連施設シリーズ No. 3

阿南市科学センター

基本データ

所在地：徳島県阿南市那賀川町上福井南川淵 8-1

主機材：口径 113cm, カセグレン式望遠鏡

利用等：定例観察会○（毎週土曜日）、太陽観察△、プラネタリウム○、展示室○、

講座室○、宿泊施設×、車椅子利用○

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始

連絡先：0884-42-1600

Web サイト：<https://www.ananscience.jp/science/>

阿南市科学センターは 1997 年に旧那賀川町において、地域の小中学生の理科学習の拠点になることを目指し設立されました。現在は、阿南市内の全小学校 3～6 年生と全中学 3 年生を対象に、学習指導要領に基づいた理科の授業を年間約 120 日間にわたって実施しています。設備には、口径 113cm を誇る四国最大の大型望遠鏡を備えており、公開天文台として天文学の教育・普及活動にも力を入れています。この大型望遠鏡は西村製作所製で、フォーカス式架台によって駆動し、主鏡は名工・苗村敬夫氏の手によるものです。また、直径 9m の天体ドーム（アストロ光学工業製）はアイリッド型と呼ばれ、ヘルメットのバイザーのように大きく開口します。同種のドームとしては国内最大級であり、観望会の際にはドーム内から星空案内を行うことも可能です。

文責 阿南市科学センター 学芸員 今村和義